

## 魚類の生活色に就いて(第11)

黒田長禮

On the life colors of some fishes—XI

Nagamichi KURODA

(154) ユメカサゴ *Helicolenus dactylopterus hilgendorfi* (STEIND. & DÖDERL.). 1946年10月31日千本沖手縄網で漁獲の幼魚1点(全長104.5, 高さ28 mm)を入手した。虹彩は

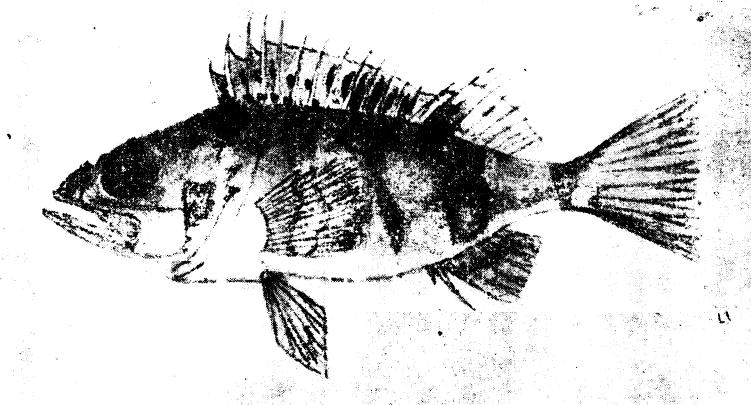


Fig. 1. ユメカサゴ 幼魚 千本沖 全長 104.5 mm. 著者原図

暗灰褐色に黄色を帯び、内輪は黃金色。体側の斑や色彩は成魚より朱色が少く、寧ろ紅色味が多いが、一体に淡色である。D. 棘部及び前部軟条には淡黒色の斑点又は長い横斑がある。P. 基部と腹部とは目立って白色が強い。普通はD. XII, 12であるのに此標品では明かにD. XIV, 10; A. III, 6; P. 18; V. I, 5; C. 12+xである。D. 第13棘が目立って低い。

(155) イズカサゴ *Scorpaena izensis* (JORDAN & STARKS). 1947年3月4日志下沖手縄で幼魚1点(全長95 mm)を入手した。虹彩は鈍黃白色で、上方は暗色、右方と下方に半放射状の9暗色斑がある。体は成魚に比し幾分淡く、濃桃色で、体の前方に凡そ5暗灰黒色の不規則形の帶があり、体側後方は側線下にも延長する。頭部、主に眼下に、4~5の暗色横斑があり、鰓蓋には斜平行の2暗帶がある。側線下方の体側は淡桃色の地に濃桃色の網目斑があり、白色小弁状物が10数個生じ、同様のものが側線上にも7~8個を生じ、鰓蓋前骨下端にも2個、上顎主骨後方にも1個が生じている。D. XII, 10で棘は淡桃赤色に3~4個の小黒点があり、棘部の膜は淡黄地に淡灰黒色の汚斑がある。軟条部は黄色地に不明瞭な2暗色縦線があり、その先端近くに凡そ2縦列をなす小暗赤点がある。C. は淡桃色地に暗茶赤色の小点の5~6横点列がある。P. は淡黄地に同色の7横点列がある。V. は濃桃色で、先端は幾分黄色。A. は桃色地に1濃赤桃色斜線があり、棘部の基部に4個程の小暗茶赤色点があり、軟条部の先端

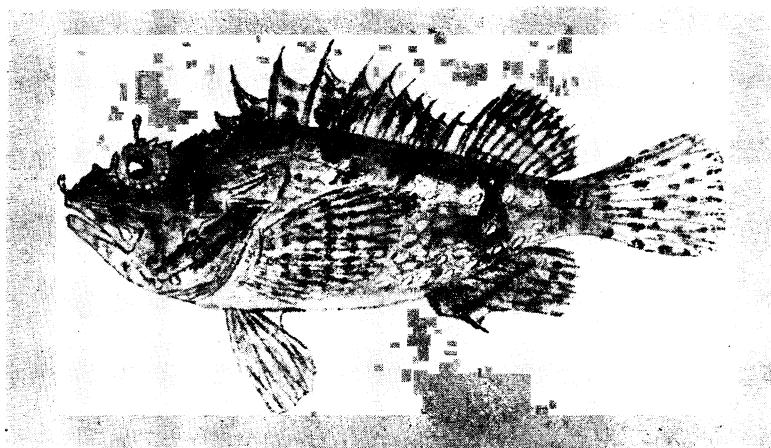


Fig. 2. イズカサゴ 幼魚 志下沖 全長 95 mm. 著者原図

に灰黒色の 3 斜列の点がある。吻端と眼の上方とに各 1 個の附属小弁状物がある。

(156) オニカサゴ *Scorpaenopsis cirrhosa* (THUNBERG). 1946 年 10 月 31 日千本沖手縄に入った幼魚 1 点 (全長 68.5, 体高 17.5 mm) を入手した。虹彩は白色, 上方が灰色, 全部にオリーブ色の放射斑が著しく存する。成魚とは多少異り, 下顎の触鬚は認められない。但し吻端附近から 1 小橙黄色の附属物が出ている。体は淡紅色の地に灰黒の雲形をした不規則斑 4~5 横帯を見る。D. XII, 10 で内棘部には淡黒雲形縦斑があり, 第 4~8 棘の膜上端は暗桃色, 軟条部には上方に小黒点が少しある。P. は淡色, 基部紅色で, 5 点列の横斑があり, P. 基部附近に 5 個位の小黒点がある。V. は淡桃色魚斑。A. は淡桃色で, 棘部に 2 黒斑があり, 軟条部後方に小黒点が少しある。C. は淡桃色の地に条軸上に 4~5 点列の黒点があつて淡黒点の横斑をなしている。体の腹部から後方尾柄に橙黄色及び黒色の小点を散在する。上方唇にも黒斑(前方)と淡桃色斑(後方)とがあり, 喉にも淡桃色の点斑がある。

(157) ハチ (ヒレカサゴ) *Apistus carinatus* (BLOCH & SCHNEIDER). 1946 年 11 月 19 日志下の夜手縄網に入った稚魚 5 尾 (全長 36~42 mm) を入手する。虹彩銀色, 上方褐色。体形は全く親に等しいが, 最も異なる点は C. の斑紋で, 極めて淡い黄色地に 2 横帯があり, 先方に近いものは帶黒赭色, 中央のは暗赭色(淡色と共に), 何ぞれも横 V 字形を呈する。上唇から吻を通る過眼帶があり, 暗灰褐色で, これと体面の地との境に淡灰軟皮色の鞍掛斑が 1 個ある。頭上と鰓蓋は淡暗紅色を帯びる。下唇は淡色中に上唇と対する部に同様暗灰褐色の 1 小点がある。背面は淡灰紫色, 腹方は次第に白く喉も同様に白い。尾柄基部に幾分暗赭色の 1 小横線がある。D. 棘部後方には親同様の 1 大黒斑があり, 基部は白色。軟条部は幾分淡黄色で先後端は暗オリーブ色。P. は親と同様に長く, 殆んど尾柄後端に達する(個体によっては實際尾柄を超えるものもある)。P. 最下の 1 遊離条は白色なること親に等しい。V. は淡オリーブ色, A. も同様で, 個体により 2 個の暗縦帶がある。

1957 年 8 月 10 日沼津市営千本水族館で本種の中魚 3, 幼魚 1 を見た。天然色は著しく美しいことを知った。地色は幼魚は淡黄の地色で, 中魚は多少暗色であるが, 頭を上から見ると頭頂は暗褐色, その前後に美しい明かな白色横帯が存する。過眼線は暗褐色。D. の黒点は明瞭, P. は内面がオリーブ黄色, 外面が暗色をなし, P. の下方の遊離軟条が見える。頭下面から

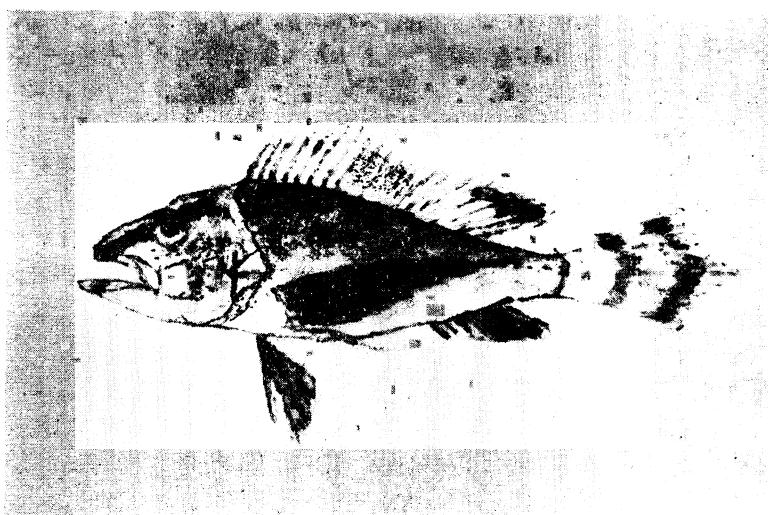


Fig. 3. ハチ 稚魚 志下 全長 42 mm. 著者原図（拡大）

前方に向っているヒゲ 3 本は白色を呈している。四例とも静止していた。水族館では私は始めて見た。

(158) ハオコゼ *Hypodytes rubripinnis* (T. & S.). 1947 年 2 月 5 日志下で活魚 1 尾を得たものは珍らしい黄色型と見るべきもので成魚（全長 86、体高 22 mm）である。虹彩は暗橙黄色、上方褐色、下方帶灰色で、下方及び側に 5 放射の淡褐小帶があり、内細輪は黃金色。体色は岡田・内田・松原 (1938, pl. 122, fig. 2) の図版に比し、斑紋は大体同様であるが、黄色型と見るべきものであるので、体後方の下方にも全く紅色を帯びず淡黃色に濃黃色の不判明な網目状斑を顯わし、多少擬白色小点が雜る。頭側は淡黃地に濃黃小斑が交り、又眼の後方及び下方に少とも 5 個の不規則な灰栗色斑又は帶がある。其他同色の小点が鰓蓋と下頸にある。額は淡色地に灰黒色の不規則な横帶がある。後頭から尾柄迄の間に大小様々な不規則形の灰栗色大斑や横斑があり、多くは縁が擬黑色である。後頭と鰓蓋後骨後方にあるものは大斑である。体後方では側線下に及ぶ横斑もあるが、約 10 個位の同色の多少色淡き小円斑が散在する。D. 第 9~11 棘の下方に淡黃白色の 1 中斑があり、不規則状をする。これと同様の長味斑が P. の先方上方に當る處の体側にもある。D. は XIV, 7 で棘端に朱点を有し、条には赤色と擬黑色の多少交互斑をなし、膜は棘の前部では基底近くにあり、各膜上縁は赤色である。而して D. 棘及び軟条部の膜には多少波状の斜帶があり、灰黒色で少しく赤味が加わる。これらの斜帶は体側背方の灰栗色大斑や横斑に連続する。又 D. 棘第 6~8 の膜に長味の 1 大黒斑があり、上縁は凹凸し、この大斑には淡黃色の微小点を散布するが、熟視を要する。D. 軟条は赤味が強い。P. は赤色最も濃く 4~5 の小斑の横列をなし、多少擬白小点を交える。V. は I, 4 で帶白橙黄色で、先 1/3 は淡赤色、棘の先端近き内方に 1 小黒点がある。A. は III, 4 で美橙黄色で、棘及び軟条に小黒点と小白点とを雜せる。C. は後縁截形で、淡灰黄色の地に 5~6 の灰黒色の横点列があり、C. 後縁に近い 1/3 は赤味が強い。

(159) アナハゼ *Pseudoblennius percoides* GÜNTHER. 1948 年 6 月 7 日私自身が我入道で釣獲した 1 尾（全長 112.5 mm）について記す。虹彩は帶黃灰色。此標品は蒼味少き普通型である。背面は帶黃オリーブ色で、体側に 6~7 個の灰黒横帶が多少不判明に存する。頭側に

も同様数個の斑がある。上下唇に蒼色と灰黒色との点があり、側線以下は主に灰黄色で、それに蒼白色小円点を散在する。胸から腹は淡蒼白色。ID. X は前半暗オリーブ色、後半は白く透明で、棘軸に暗紅色の小斑 2 縦列をなす。P. は淡黄白色で軸は黄色、上方の 2~3 に白斑があり、基部には少しく灰黒色の短軸斑がある。V. は I, 2 で黄色、A. 16 は IID. と共に白色で透明、又軟条には暗紅色とオリーブ色との小点が交互にある。C. は白と帶褐オリーブ色との横帶をなすが、基部の帶褐オリーブ色はその量が多い。

(160) アネサゴチ *Onigocia macrolepis* (BLEEKER). 1945 年 10 月 22 日千本西沖 50 尋の手縄網に数尾入り内 1 点 (成魚全長 128 mm) を入手。虹彩は灰褐色、内細輪は黃金色。頭上面は暗褐色、背面は帶褚暗褐色で、極めて不鮮明の暗色の 5 横帶がある (殆ど判明せぬ程度)。側線より下の体側面には著しい暗赤色を帯びる。P. は淡紅色に小黒点を密在して美しい。V. は淡黃色に黒色密斑がある。D. は IX, 12 で膜は白く、軟条に小赤褐斑がある。C. も同様。A. は白く無斑。体の腹面 (頭腹面共) は帶淡桃白色で、V. は A. 始部には達しない。(オニゴチではこれを超える)。この種はオニゴチに最も似るが ID. に黒斑なきこと、側線に棘のないこと (オニゴチでは側線の前部の半の鱗に鋭棘がある) 等を特徴とする。色彩は似ているが暗色帶が不判明である。

(161) イゴダカホデリ *Pachytrigla a'ata* (HOUTTUYN). 1947 年 4 月 8 日志下沖手縄で成魚 1 点 (全長 220 mm) と幼魚 1 点 (全長 195 mm) とを入手する。成魚の方は背面汚淡桃

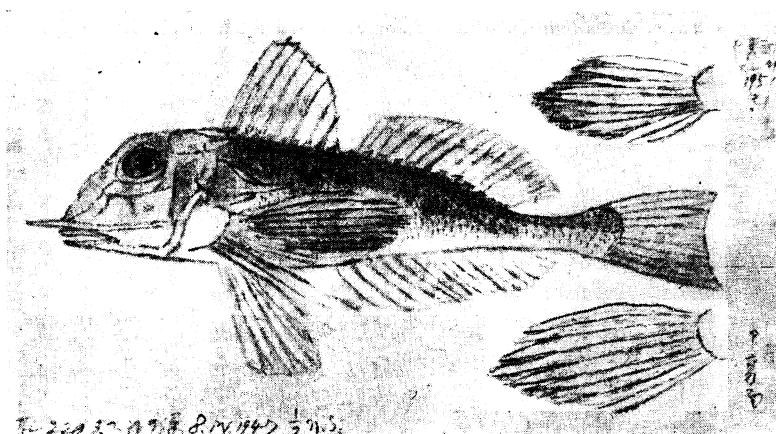


Fig. 4. イゴダカホデリ 成魚 志下沖 全長 220 mm.

胸鰓裏面には 195 mm の幼魚、下は 220 mm の成魚

著者原図

色で、側線下と体側とに 4~5 個の帶赤色の不判明な汚点がある。腹方は淡くなり、腹は白い。頭部は淡紅色で鰓蓋後方に黃灰色を帯び他部よりも色が濃い。ID. は VIII, で棘と膜は甚だ淡紅色、第 3~6 棘の膜に淡紅色の 1 斜帶があるが、極く不鮮明。膜の上端部は多少紅色が強い。IID. は 16 で ID. と同色で中央より稍々上方に 1 淡紅色の縦帶があるが、之れ又不鮮明である。C. は上方半は紅色に少し黃色を帶び、下方半は深鮮紅色となる。P. は外方帶白灰色で、各条が白く、下方の 3 条は淡紅色、3 遊離軟条は深紅色で先端 1/3 位は白色を帯びる。P. の裏面は上方狭く汚紅色、下方は擬白色、中央はオリーブ黃色の 1 大斑をなし、その先端は少しく灰黒色となる。V. の棘は白く、その他も白色で、条のみは淡紅色である。A. は白色無斑。虹

彩は黄色に 2 赤斑がある。

幼魚（全長 195 mm）の方は体色が著しく灰色に富み、赤味が少く、腹は成魚より擬白色が多い。P. の外方は上記と同様であるが、内面（裏面）は上方狭く擬白色、下方は擬白色膜に濃紅色の条があり、中央にはオリーブ黄色の大斑を有することは同様であるが、その先端の灰黒色縁が巾広く目立つ。その他の点は前記と異らない。

吻棘の模様など松原・桧山両氏（1932, p. 19, fig. 7）に一致する。

(162) オニカナガシラ *Lepidotrigla kishinouyei* (SNYDER). 一名キシノウエカナガシラ（松原・桧山両氏）或はキヌカナガシラ（蒲原氏）という。1951 年 11 月 20 日上野政治君の焼津で漁獲の上、冷凍した 1 幼魚（全長 110, 体長 88.5, 体高 21.5 mm）を入手した。この種の特徴は P. の最近遊離軟条は V. の先端に達しないで 3.5~4 mm 短い（オニカナガシラでは時に殆ど達する）。しかるにカナガシラでは 8 mm 位短かい。吻棘は長く鋭く、幼魚では眼径の凡そ 1/3、成魚ではそれ以上に及ぶ。両吻棘間は眼径より著しく長い。幼魚では ID. に微かな 1 灰赤斑（ブドウ赤斑）がある (5×5 mm)。[成魚には之はない]。P. の内面には下部約半分は黒色、それにホウボウの如き淡蒼色小斑の 3 点列を示す。体色は汚赤色である。

駿河湾では他種より比較的少いらしく、私はこの焼津の標品の外には見ていない。しかし相模湾では普通らしく熟海市場で吻棘共全長 149~184 mm に及ぶ 3 標品を入手している。

(163) カナガシラ *Lepidotrigla microptera* (GÜNTHER). 1946 年 12 月 8 日志下手縄網漁獲の 1 中成魚（全長 200, 体高 33.5 mm）を入手。虹彩は上下が暗褐色、前後に各 1 赤斑があり、他は黄色〔又他の例では虹彩黄色のものもあった〕。背方はレンガ赤色に多少横紋状の不判明な汚斑がある。頭部は色淡く桃色に富み、体側の上方のレンガ赤色と下方の純白との境に淡桃白色の 1 縦帯が通る。ID. は膜が淡桃白色で多少の赤斑があり、第 4~8 棘間の膜に 1 大赤色擬円斑があるのが普通であるが、此標品では帶赤黒色で赤縁を有することが極めて顕著にある。IID. は淡桃白色で、前方軟条に 3 小赤点があり、後方 3~4 軟条の基部に 1 赤小縦斑がある。その他中央稍々上方に淡桃色不判明の 1 縦帯が通る。C. は上半汚赤色、下半美桃色で、相當に色が濃い。P. は帶淡黄白色で、基部と上下軟条に赤色があり、最下軟条 2~3 は白く、又遊離 3 軟条は基部が白く、他は帶白赤色である。V. と A. とは白色で、前者では前方に少し桃色を、後者では後方に少し桃色を帯びる〔岡田・内田・松原, pl. 128, fig. 4 の如く赤くはない〕。そして P. の内面は下方の 3 軟条及び膜は帶淡黄白色、他の条軸は淡桃白色で、膜は暗赤色、先端灰紫色である。〔又他例では C. の下縁に白味のあるものがある〕。

因に静浦方言でカナガシラをカナドオといい、カナドをクギガシラといふから注意を要する。

(164) カナド *Lepidotrigla güntneri* (HILGENDORF). 1951 年 7 月 31 日伊豆松崎附近「裏ノ瀬」(120~130 尋) で福本正之君漁獲の 1 成魚を入手した。全長 202 mm に及び田中氏の 180 mm より大きい。D. の第 2 棘は他より著しく長く、D. の膜に明かに赤斑がある。

(165) セミホウボウ *Dactyloptera orientalis* (Cuv. & VALENC.). 1946 年 9 月 12 日志下にて中幼魚 1 点（全長 116 mm）を入手した。吻は比較的長く、頭長は吻長の 2.8 倍位に当る。虹彩は白色に桃色の大斑 3 個がある〔多少褪色の為めか〕。体色は大体擬黒色で、背面が濃く、体側に不判明の 4~5 の大型雲形暗色斑がある。腹部は擬白色で体側下方の中央と後部とに各々桃色を帯びる。額は円く色淡く、吻端は暗色となる。体色はホウボウの場合と同様に幼魚及び稚魚は一体に黒味勝ちで、桃色の部分は本例では下顎と喉・P. の基部・D. の第 5 軟条基部・体側下方に近き 2 部・A. の後部軟条及び C. 後縁中部以下に出現する淡桃色が見られるのみ。ID. I は黒色、膜は淡黒、IID. I は小さく淡黒、IIID. V は膜淡オリーブ色で棘に暗色の 3

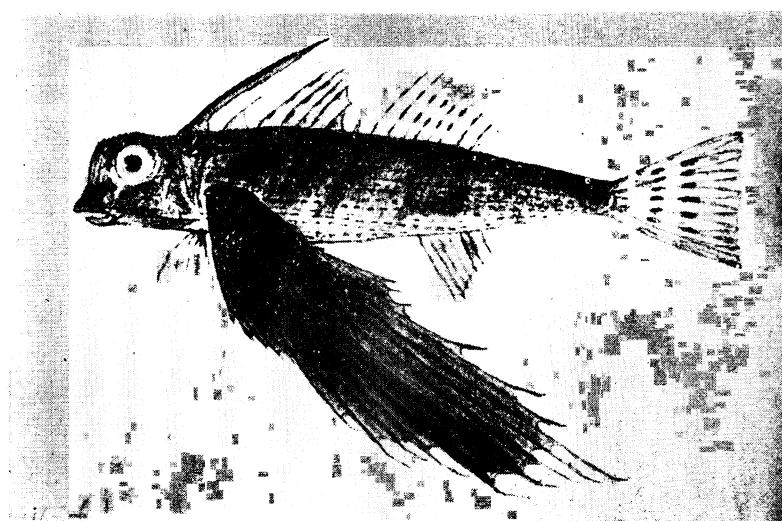


Fig. 5. セミホウボウ 中幼魚 志下 全長 116 mm. 著者原図

縦点列がある。IVD. I は極めて短小で擬オリーブ色。VD. 8 は稍々長く、膜は淡色、各軟条にオリーブ色の 2 縦点列と基部に淡桃色の 1 縦点列とがある。P. は頗る長大で、各条内方に屈曲性があり、帶オリーブ黒色で、所々に淡白蒼色の軸斑が不判明にある。V. は小形で白色、基部に少し桃色を帶びる。A. は白色で、前方軟条端に少しく黃色があり、後方の 2 軟条基部に少し桃色を有し、この辺の膜は稍々暗色となる。C. は開けば後縁截形で極めて僅かに凹み、白色膜を有し約 3 橫列をなせる濃オリーブ褐色の小斑があり、中央より下方の後縁は淡桃色となる。

此魚は静浦方言でツバクロ（燕）という。

#### Résumé

The part eleven of this article contains descriptions of life colors of the species Nos. 154-165, with some noteworthy records on *Helicolenus*, *Scorpaena*, *Scorpaenopsis*, *Apistus*, *Hypodytes* (yellow color variant), *Pseudoblennius*, *Onigocia*, *Pachytrigla*, *Lepidotrigla* (3 species) and *Dactyloptera orientalis* (juvenile example) from Suruga Bay.